

都立動物園・水族園の目指す姿の達成に向けた目標

平成30(2018)年6月 東京都建設局公園緑地部

○特に表記のないものは平成30年度から実施します。

○「都立動物園マスタープラン」は、平成32年度までの計画のため、この目標も、平成32年度を目途に設定しました。

マスタープランで示された 目指す姿と取り組みの方向			中長期目標(平成32年度まで)
目指す姿	取組の方向	項目	
飼育繁殖 技術を世界に発信し、東京、日本そして世界の野生動物の保全に貢献する動物園	希少な野生動物の保護繁殖(生息域外保全)に積極的に取り組み、生息地の保全活動(生息域内保全)にも貢献していきます	希少動物の保護繁殖	・3つの視点(飼育繁殖、保全、普及啓発)から、10年後の目標を設定した新ブーストック計画に基づき、その目標達成に向け、PDCAサイクルによる評価検証を毎年実施する。
		調査研究機能の充実	・動物園、水族園の持つ機能の一つである「調査・研究」について、広く都民に知ってもらうため、毎年、調査・研究の取組内容や成果を公式ホームページで公表する。
		高度な飼育繁殖技術の継承・発展	・飼育繁殖等の技術の継承・発展のため、平成32年度までに、新ブーストック計画対象種のうち30種の飼育繁殖マニュアルを更新する。
動物や自然への感性を育み、人々と野生動物との架け橋となる動物園	多様な野生生物の生態や生息地の環境を伝え、来園者の興味や関心を引き起こし、野生動物の保全活動の理解者と担い手を育てていきます	生態や生息環境の再現	・客観的な評価情報を集積・分析し展示を改善するため、原則としてすべての展示を対象とした4園共通の調査を新たに実施し、平成32年度までに2園分を実施する。 ・多摩動物公園では、動物福祉に配慮した十分な面積を確保したアジアゾウの生態展示施設を、上野動物園では、ジャイアントパンダの生息地の環境を再現した展示施設を、ともに平成31年度で整備を完了する。
		環境学習の場としての機能強化	・環境学習の場としての機能を強化するため、4園の教育普及機能を統括管理し、活動の方向性を示すための組織を平成32年度までにつくる。
		都民等との協働事業の充実	・動物園の理解者を増やすため、アウトリーチ活動、飼育・学芸員実習や職場体験、教員セミナーなどについて、同規模で毎年実施するとともに、内容を充実させていく。 ・来園者に動物の魅力をより充実した形で伝えるため、各園で毎年、ボランティアを対象とした研修を実施する。
		都立動物園における環境への配慮	・環境保全に取り組むため、環境認証を取得している資材・食材等について調査し、その導入や規模を検討する。平成31年度以降導入し、その取り扱いについて園内や公式ホームページ上で公表する。
新たな魅力で観光に寄与し、多くの人々が繰り返し訪れ、賑わいを創出する動物園	魅力あふれるサービスの提供により、都民だけでなく、世界中から多くの来園者を迎え、東京の観光や地域振興にも貢献していきます	安全・安心、快適な空間	・来園者や職員の安全を確保するため、耐震補強の必要な建築物の耐震整備を以下の4施設で実施する。 上野動物園:表門、東園無料休憩所 多摩動物公園:ライオンバス発着場、キリン舎 ・平成31年度から園内施設の改善策を検討していくために、来園者評価・アンケート等をまとめ、その結果や動向を把握する。
		ホスピタリティあふれるサービス	・苦情要望に効果的に対応するため、窓口、園内投書、電話、公式ホームページ、アンケートなどでの苦情・要望をデータベース化し、協会全体での情報共有を図る。また、主なものの内容とその対応を公式ホームページ上で公表する。
		観光の拠点づくり	・海外からの来園者が円滑に移動することができ、快適に過ごすことができるように、平成31年度までに、4園において多言語対応の案内サインを整備する。 ・公式ホームページの全体的な構成や内容を毎年確認し、定期的に更新していく。
マ 実 現 タ ー 向 け ラ ン の	効率的・効果的な運営		・(公財)東京動物園協会では、収支比率の改善のため、管理費比率(経常経費に対する管理費比率)の抑制に努めている。平成29～平成32年度の管理費比率平均値は、平成23～平成28年度の平均値の3.2%を下回る、3.1%を目標とし、その水準を維持していく。
	入園者増の戦略的取組		・上記のさまざまな取組により、4園の入園者増を目指す。年度毎の入園者数には天候や園内整備工事の影響を受けるため、過去5年間の平均値を指標とし、平成32年度を含む過去5年間平均の4園合計入園者数の目標値を730万人とする。なお、平成29年度を含む過去5年間平均は718万人である。